

男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会

(平成 25 年度第 1 回)

議 事 録

2013 年 6 月 4 日 (火) 開催

時 間	15:00～17:00	場 所	地盤工学会会議室
桑 野 委 員 長	○	亀 村 オブザーバー	○
工 藤 委 員 兼 幹 事	○	浅 田 委 員	○
杉 本 委 員	○	岩 瀬 委 員	×
西 岡 委 員	○	山 口 委 員	○
田 中 委 員	○	野 崎 委 員	○
		山 下 委 員	○
		小 林 委 員	○

○：出席 ×：欠席 △：未定

議事録担当者：山口委員

【前回議事録の確認】

【別紙 - 1】 pp. 1-2

- ・承認された。

【議 題】

【報告事項】

1. 会員・支部部の動き (桑野委員長)

【別紙 - 2】 pp. 3-4

- ・経費削減のため、委員会の回数を減らすとのこと(ダイバーシティ委員会は年 6→4 回)。

2. 男女共同参画学協会連絡会関連報告 (山口委員)

- ・富山大会の特別セッションについては、後援依頼を提出済み。
- ・6/26 開催の運営委員会に出席し、後援依頼の説明を行う予定 (山口委員)。

3. シニア WG(亀村オブザーバー, 野崎委員)

【別紙 - 3】 pp. 5-72

- ・アンケートを行ったところ約 500 人から回答があり、かなり膨大なデータが集まった。
- ・対象者は 51 歳以上で、現職だけでなくかつて会員だった方も含まれている。
- ・回答者は首都圏の方が多く、地方の方は少ない模様。
- ・まずはデータを解析して、富山大会の特別セッションにて発表予定。

【参考】アンケート回答の一部

- ・学会誌が難しすぎる
 - ・「分かりやすい講習会」といいながら分かりにくい講習会が多い。
 - ・「学」と「実務」を繋ぐ役割が学会の担う任務の一つだが、それが機能していないように思える。
 - ・アカデミックに偏っている。これからの学会のあり方を見直さなければいけないのでは？
 - ・土木学会のような関連学会の会費免除なども検討してほしい。
- 委員より、シニア層だけではなく、若手からも同様の意見が上がっている。中枢部はこのよう
な課題を認識しているのだろうか？という意見があった。

4. 日本学術会議ヒアリング結果(桑野委員長, 工藤委員)

【別紙 - 4】 pp. 73-74

- ・日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会は、「科学者コミュニティにおいて女性の参画を拡大する方策についての検討」の審議依頼を内閣府から受けており、現状把握のためにアンケート調査を行っている。その結果、先進的な取り組みをしている団体としてヒアリング調査を受けることになった。本調査の集計結果は、後日報告がなされるとのこと。
- ・地盤工学会のダイバーシティは「理念先行型」で活動が進んできた旨の説明を行ったところ、インタビュワーは感銘を受けた様子だったとのこと。他学会は、「外的な強制力や要因」によりダイバーシティに取り組みはじめたところが大半とのことで、地盤工学会のように本質的な男女平等の観点から活動を始めた学会はめずらしいとのこと。

5. 土木学会ダイバーシティ委員会動向(工藤委員, 野崎委員)

【別紙 - 5】 pp. 75-81

- ・第 1 回土木 a la mode 「ドボジョ！が少女マンガのヒロインになる。」が開催された。
- ・この企画は、少女マンガ「ドボジョ」の出版記念として、土木学会の社会コミュニケーション委員会とのコラボ企画によって開催され、盛況だったとのこと。

【審議事項】

1. H25 年度特別セッション

【別紙 - 6】 pp. 82-84

➤ 担当者：工藤委員長，浅田委員，田中委員

- ・主に、大会しおり用原稿の作成、演者との折衝などを行う。
- ・写真係，マイク持ち、セッション内容のメモなどは各委員に割り振る。

2. H25 年度サロン・土・カフェ W

➤ 担当者：山口委員，小林委員

- ・雪割草の会の方と協力して段取りを進める（雪割草の会担当者：野尻様）
- ・場所取りとレイアウト決め（場所は富山国際会議場 1 階カフェ横オープンスペースに決定）
- ・カフェの広報を行う。サポーターにもメールで流す。 サポーターメール担当：小林委員
- ・その他，会場設営，進行，名札等の作成，お菓子とコーヒー等の手配を行う

3. 託児所関係

➤ 担当者：工藤委員長

- ・基本的には実行委員会マターであるが、利用者を増やすための方策は当委員会で考える。
- ・利用者人数等を実行委員会経由で把握する。

4. 夏の学校関係

【別紙 - 7】 pp. 85-86

➤ 担当者：山下委員，野崎委員

- ・8月8～10日の2泊3日で行われる。
- ・地盤工学会としては9日のポスター展示に参加する。デモ実験や資料の展示，キャリア相談などが主な仕事で，昨年の経験から説明員は4～5人での対応が望ましい。
- ・まずはポスター作製と，当日配布する資料の手配を行う。

5. 内閣府キャンペーン、その他

【別紙 - 8】 pp. 87-92

➤ 内閣府キャンペーン

- ・杉本委員が退任されるため，山下委員に引き継いだ。
- ・内閣府の平成 25 年度チャレンジキャンペーンについては，書類を提出済み。その後のアクションは特にない。

➤ その他

- ・各委員からの意見は以下の通り。

【男女共同参画】

- ・座談会 3 部作のうち、女性座談会が今年のミッションである。
- ・若手座談会をやっただけでそれで終わりはもったいない。実務の若手をすいあげて，学会活動に積極的に参加してもらうのが重要。
- ・若手セミナーというものがあるが，分野が比較的偏っており，それぞれがお互いの情報を共有したいと思っている。(ex.構成側専門の人たちは実務の話を聞きたがっているなど)
→例えば現場見学会を開いて，若手実務の人が説明役をやるなど。
- ・関西支部では若手交流会（発表会や懇親会等）が活発に行われている模様。
→各支部に呼びかけて，ダイバーシティについて議論してもらうのもいいかも？
- ・研究発表会で若手（例えば 30 代まで）だけの懇親会をひらいてみては？
- ・まずは各支部の活動や若手について探ってみることが必要。
- ・各支部のキーパーソンを探して，その人たちと座談会をするなど，支部間で連携してみるの
はどうか。
→若手関連の課題については西岡委員が情報収集を行うこととなった。

6. 今年度委員会構成案

【別紙 - 9】 p. 93

- ・名簿に誤り等あれば適宜連絡のこと。

7. 次回開催日の確認：9月12日 15時～